

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 いじめの実情と対応（40分）</p> <p>7月、岩手県矢巾町の中学生が自殺しました。いじめを苦しめたのだろうというのですが、県のいじめ認知件数に入っていませんでした。</p> <p>11月に入り名古屋市西区の中学生がいじめにあったという遺書を残して自殺しました。ここでもまた、市教育委員会はいじめを把握できていませんでした。</p> <p>10月28日の報道によれば、文部科学省が行ったいじめ再調査で3万件も増えたという驚きの報告がされています。</p> <p>埼玉県内の国公立私立の小・中学校と特別支援学校が認知したいじめの件数は3098件でした。児童生徒1000人あたりの認知件数は4.0件で全国2番目に少なく、最も多い京都府と約21倍の開きがありました。</p> <p>いじめの定義が不明確なのではという見方がある一方で、いじめがないという学校は、もしかしたらいじめに苦しむ子をひとりも救えていないのではという疑問も出てきます。</p> <p>いじめ再調査を受けて、鶴ヶ島市での実情と対応についてうかがいます。</p> <p>(1) いじめ再調査での市内の認知件数は</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 小学校での傾向について イ 中学校での傾向について <p>(2) 相談員、スクールカウンセラーの配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 小学校での巡回相談員が果たしている役割 イ 中学校でのスクールカウンセラーが果たしている役割 <p>(3) いじめを防止するための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ア ピア・メディエーションの取組 イ 人間関係についての勉強会 <p>(4) 教職員削減議論について</p>	<p>市長 教育委員会教育 長</p>

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>2 まちづくりからの地域包括ケアシステム（20分）</p> <p>10月、長野市で開催されました第77回全国都市問題会議に参加いたしました。2日間を通して「多様な形の連携に取り組むことにより、市内外の様々な利用者の心をとらえて、これからの人々に交流という価値を提供すること自体が、地域を活性化し、人やモノを惹き付ける都市の魅力に直結する」ということがわかりました。</p> <p>フォーラムでいくつもの事例を聞き、鶴ヶ島市の情景と重ねあわせてイメージしたときに、地域包括支援ケアシステムは、人やモノを惹き付ける都市の魅力づくりに、内包される取組ではないかと思に至りました。</p> <p>9月議会での地域包括ケアシステムの構築についての質問に、「住民の支え合い活動を高齢者の自立支援につなげるよう発展させていくことが求められる」そして、「介護予防、生活支援、社会参加を一体的なものとして考えるのが重要」とも答弁されています。</p> <p>全国都市問題会議の提言を受けて、まちづくりの視点からの地域包括ケアシステム、生活支援体制整備について進捗状況をうかがいます。</p> <p>(1) 生活支援体制整備の進捗状況</p> <p>(2) 具体的な生活支援サービスについて</p> <p>ア サービス内容の独自性は</p> <p>イ 利用価格と受益者負担の独自性は</p> <p>ウ サービス提供事業者へ向けた市の意向は</p> <p>(3) 鶴ヶ島版地域包括ケアシステムの姿について</p>	市長